
Sクラスのイケメン - 羨望と劣等感の間

真黒くろすけ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Sクラスのイケメン - 羨望と劣等感の間

【NZコード】

N8259W

【作者名】

真黒くろすけ

【あらすじ】

Sクラスのイケメンにならないと死ぬ、、、Sクラスイケメンになつた僕の壮絶な戦いの幕開け！

1イケメン

僕は一命を取り留めた。鏡を見ると、Cクラスのイケメンになつていた。

イケメンのことなんてなんにも知らなかつた。なにしろ僕はどこにでもいるフツメンで、毒にも薬にもならないような男だったからだ。

しかし僕はひょんなことからイケメンの仲間入りを果たした。そしてそれが壮絶な戦いの始まりだと、夢にも思わなかつた。

事の発端はこうだ。高校生になつた僕はお洒落に興味をもつた。それは至極当然なことであり、女の子にモテるために清潔感が欠かせないことは聞き及んでいた。

とはいえセンスのある方ではない僕はお洒落の仕方がわからない。そこでとにかくお洒落な服屋に行けばいいと単純に考えた。

初めての原宿にはとても緊張した。何しろ周囲には地元にはいないうな奇抜な格好をした同じ年くらいの若者や、びっくりするくらいきれいなお姉さんなどがいるのだ。

僕はひどく場違いな気がした。とにかくひつひつしているようほん店に入らなくてはならない。僕はあせつていた。

周りを見渡すと、どうやら僕にも入れそうな敷居の低い感じの服屋を見つけた。あれしかない、僕はとっさに駆け出した。それがいけなかつた。

店まであと5メートルというところで、僕は周りが見えなくなっていたのだろう、横から来ていたお兄さんに激突してしまった。

瞬間、僕の体はものすごい勢いで吹っ飛んだ。

宙を舞いながら、僕はそのお兄さんのすごいイケメンなのを見た。そして直感した。

これは死ぬ。

2イケメン

جَنَاحَاتُ الْمَلَائِكَةِ

確か僕は原宿でイケメンのお兄さんにぶつかって

あたり一面はお花畠だつた。 そつかここはあの世への入り口か。
僕は、死んでしまつたのか。

たけし

え？ 誰？

私だよたけし……

お、おじいちゃん？

「 そうだよたけし……。お前が死んでしまったと聞いてとても悲しんでる……。私はお前の将来をとても楽しみにしていた……。でもお前は死んでしまった……。」

「うんねじこちやん。

謝る」とはない……。お前にちょっとイケメン度数が足りなかつただけだ……。私がお前にイケメンを遺伝させてやれなかつたのがいけなかつたのだ……。

おじいちゃんはイケメンだつたらしいね。

私はSクラスのイケメンだった……。しかしそれゆえにおじいちゃんになってしまった……。私は人を見下した……。私は自分の過去を悔いている……。だからお前には立派な人になつてもらいたい……。

でももひつ無理だよ。僕もそつちへ行くよ。

ふふふ……案じることはない……。私はSクラスのイケメンだ……運命の女神を籠絡することくらいたやすいことなのだ……。お前にチャンスを与えるように頼んだ……。

それは、どうこうこと?

生き返るのだだけしよ……。お前がいつか心までSクラスのイケメンとなつて人のためになることを私は願つている……。達者でなたけし……。

えーおじいちゃん!!

田を覚ますと病院のベッドの上だった。

3イケメン

夢を見ていたのか。僕はむづきまでのおじいちゃんとのやりとりをひつひに思いだしていた。

しかし顔を洗おうと洗面台に向かつた時、自分の顔が変わっていることにびっくりした。それはたしかに僕の顔ではあるのだが、今までと違い、どこかシャープで、整つた顔立ち、に見えた。

おじいちゃんの仕業なのだろうか……。

僕はしばらくのあいだ半ば茫然として鏡に見入り、その新しい顔を眺めていた。

「あら、ずいぶんとナルシストなのね？」

びっくりして向き直ると看護師さんだつた。

「よかつたわあんまり大事なかつたみたいで。でもまだ無理しちゃダメよ」

僕は素直にベッドに戻つた。看護師さんはかいがいしく僕の身の回りのことを世話してくれたのだが、僕はどこかひつかつた。なにかが、違つた。

あるいは思い込みかもしれない。しかし退院後、人が自分を見る目になか違和感を覚えた。たかが顔が変わつただけで世界が一変するまでは思はないが、今までの自分とは明らかに何かが違つた。

それにしてもまさかイケメンにぶつかつただけで死にかけるなん

て思いもよらなかつた。僕は今まで彼らのことをしらなすぎた。

学校でも容姿に恵まれた連中はけつこういる。しかしその誰とも僕はたいして付き合いがなかつた。というのも僕がありきたりな男で、これといった才覚に秀でているわけでもないし、社交性が低いことも自覚していた。

その僕がいつのまにかセンスのいい連中の仲間入りを果たしている。これだけでも僕にとっては革命的な変化だつた。あのときから僕はほんとに変わつたんだということが、驚くほどよくわかつた。いつしか僕は周りの友達に影響されて、話上手になつていて。自信がつくだけでこんなにも人は変わるものなのか。

「たけし！ 今日カラオケいこーぜ」

古臭い言い方かもしれないけど、僕の毎日が輝きだした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8259w/>

Sクラスのイケメン - 羨望と劣等感の間

2011年10月9日15時25分発行